

第5章 感染拡大による影響が大きい国の地誌

第1節 環境・歴史・経済で学ぶイタリアの地誌

新型コロナウイルスによる感染被害の大きな地域の一つにイタリア北部がある。以下の3つの資料を参考にイタリアの地誌をレポートしてみよう。

ACT I イタリアの地形と気候

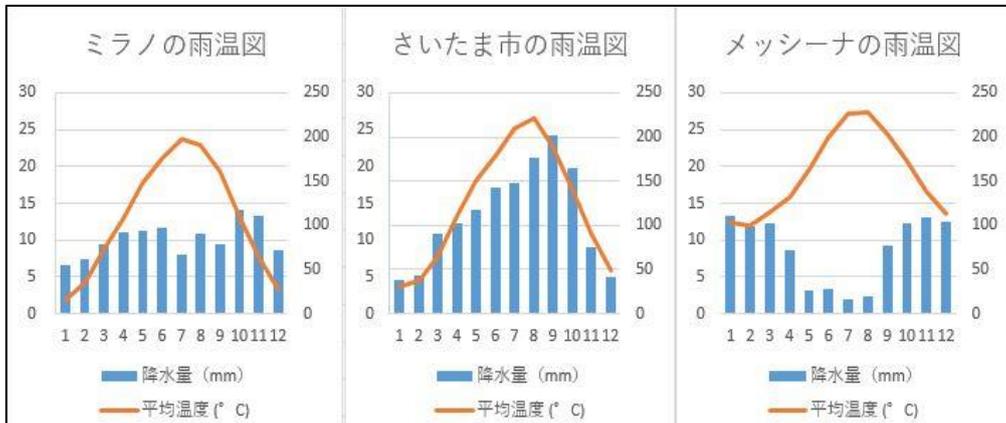
<図①> イタリアの地形環境(図中の経緯線は東経10°と15°、北緯45°と40°、太線は国境線、都市名は各国首都を表す)



作業A <図①>や<図②>を参考に、イタリア半島付近の地形と気候についてまとめた以下の文章を完成させなさい。

<文章①>
 イタリア半島はユーラシア、アフリカ大陸間の(地)に飛び出した長さ1000 kmほどの長靴の形をしている。現在のイタリア国土は新期造山帯の(ア)山脈の南斜面とアペニン山脈を背骨とする半島とサルデーニャ、(シ)などの島じまであり地震や火山活動が見られる。
 気候は南北で異なり、2つの山脈の間の(ポ)流域では年間を通して降雨が見られる日本に似た(温)気候、半島の中央から先端部及び2つの大きな島にかけては、アフリカ大陸の砂漠からの熱波に影響を受ける夏高温(乾)冬降雨の(地)気候である。

<図②> イタリアとさいたま市の雨温図(観測はかのデータによる)(ミラノはポー川の流域、メッシーナはメッシーナ海峡に面している)



作業B 下の<写真>を見て<資料①>を読み、私たちの住む埼玉県とイタリアの環境の共通点が見いだせる要素について各自調べ作文しなさい。

<写真> (グーグルストリートビューより)



この場所の地図



<資料①> ある日の職員室で

(A先生)「この写真はあそこですか？あの荒川の橋、ほら、川幅の広いところの。山も見えるし。」

(B先生)「いや、イタリアのポー川の橋ですよ。」

(A)「ほー。似たような所があるのですね。」

(B)「景色だけでなく食べ物も似てますね。米の料理とか。」

(A)「ドリアとかリゾットとかイタ飯ですね。」

<記述欄・別の用紙を用いてもよい>

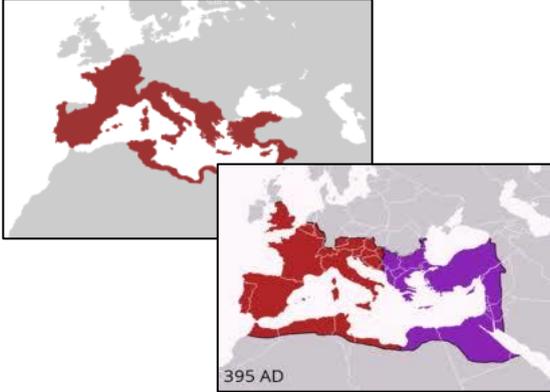
作業C イタリア南部の自然環境の特徴について、地図帳やネットを調べ、気候、地質や土壌、植生を指標にしてまとめてみよう。

<記述欄・別の用紙を用いてもよい>

ACT II イタリアの歴史と文化

作業D イタリアの歴史についてまとめた以下の文章を<図③~⑥>や<表①>を参考に完成させなさい。

<図③> 古代ローマ帝国の最大版図と東西に分かれたローマ帝国(Wikipediaによる)



<表①>

時代区分	おもな出来事・社会の様子 ()は年号
古代	都市国家がローマを中心に連合し共和制ローマ確立(BC509)・帝政ローマ成立(BC27)・キリスト教が広まる・ローマ帝国東西分裂(395)
中世	ローマ教皇権力安定・十字軍戦争(1096~)・シチリアや半島南部のイスラム支配・ルネサンス運動・支配の細分化・イタリア戦争
近世	大航海時代・宗教改革で教皇権力衰退・ナポレオンの侵略を受ける(1796)・イタリア統一戦争(1815~1861)・南北アメリカへ移民
近代	イタリア王国成立(1861)・第1次世界大戦後ファシスト政権(1922)・植民地獲得・第2次世界大戦敗戦(1943)
現代	イタリア共和国成立・奇跡の経済発展・ヨーロッパ連合構成(1951~)・南北格差問題・第2共和政(1992~)・移民難民流入問題

<図④> 1494年のイタリア(世界の歴史マップより)

- a)サルツォ侯国 b)モンフェラート侯国 h)フィヴィツァーノ
- g)アスティ郡 i)トレント司教領 d)マントヴァ公国
- e)モデナ=レッジョ公国 f)フェラーラ公国 c)ルッカ共和国



<図⑤> ウィーン会議(1815)後のイタリア



<図⑥> イタリアと 1940 年の植民地



<文章②>

イタリア半島は長く複雑な歴史を持っている。古代には地中海沿岸の（都　　）が連合し王政、共和制、帝政と変転し広大な帝国は東西 2 国に分かれた。その後中世から近世に至るまで、近隣諸国や（イ　　）まで数々の背景を持った権力が乱立し長い間分裂状態が続いた。その中で（ル　　）運動や大航海時代などその後の社会に大きな影響を与えるイタリアの人々の動きがあった。18 世紀末（ナ　　）の侵攻後国民国家確立の動きは長期間の統一戦争としてあらわれ、南北アメリカ大陸への移民、出稼ぎも増えた。日本の幕末期に当たる（　　）年、統一国家イタリア王国が成立した。以後近代化が進むが 2 つの世界大戦の間には（ファ　　）による独裁国家として植民地を広げ、ドイツや日本に影響を与えた。第 2 次大戦後は共和制国家となり荒廃した国土の再建を進め（奇　　）といわれる経済発展を遂げた。現在、西ヨーロッパ各国とも共存連携し（ヨ　　）の主要国として役割を果たしている。

作業 E イタリア北部のポー川流域のロンバルディアと言われる地域は中世から近世にかけて支配者が細分化し、また一方でルネサンスと言われる文芸復興運動の発祥地にもなった。その経緯を教科書やネットの記事を調べ、それを参考にしてあなたなりの理由を考察しなさい。

<記述欄・別の用紙を用いてもよい>

作業 F イタリアが第 1 次世界大戦後、ファシスト政権になった経緯や背景を調べ、当時の社会の課題を考察しなさい。

<記述欄・別の用紙を用いてもよい>

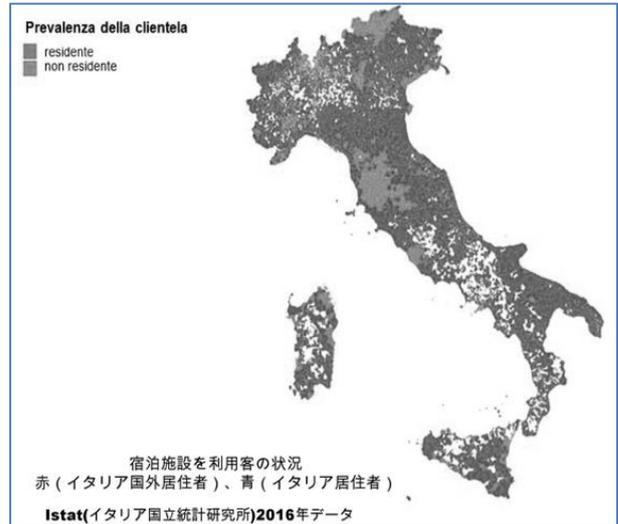
ACT III

イタリアの産業と社会

作業G 現代のイタリアの産業についての<図>や<表>、<資料>を読み取り、その様子をまとめた文章を完成させよ。

<資料②>ビデオで見るイタリアの農業地域 (NHK)

<図⑦> イタリアの宿泊者 (濃色:国内、淡色:国外が卓越)



<文章③> イタリアの第1次産業

イタリアの農業地帯は気候に合わせた作物が作られている。主食となる(小)類は全国で生産されているがポー川流域では家畜生産を組み合わせた混合農業、(大)近郊では花や野菜作りを組み合わせた園芸農業、南イタリアでは柑橘類などの(果)生産を中心とした地中海式農業が行われている。近年のスローフード指向を受け、(オ)生産が増え、その農作業体験や生産物を味わう観光旅行が内陸部、南イタリアなどで盛んになっている。また、半島国だが漁業は管理、縮小傾向にある。

<資料③> 「オーガニックとは」(一般社団法人オーガニック認証センターによる)ORGANIC(オーガニック)を訳してみると、「有機」や「有機栽培」となります。「化学合成農薬や化学肥料に頼らず、土壌の持つ力を活かして環境への負荷をできる限り少なくする農法。」です。(中略)オーガニックは、人にも地球にも健やかでやさしいライフスタイルの代名詞になってきています。



<文章④> イタリアの第2次産業

イタリアの工業地帯は古くからアルプスやアペニン山脈の水力を利用した北イタリアが中心で、ヨーロッパ全体でもスイス、ドイツのライン川沿岸、ベネルクス三国、イングランド南部へ続く(青)と呼ばれる工業地域を構成している。有名ファッションブランドに代表される皮革・繊維・(ア)産業、農作物加工の食品産業、(自)生産に象徴される輸送機器製造、地中海沿岸の港町での造船が見られる。国家的な課題の国内の(南)解決のため、石油精製所や高速道路など民営化されたかつての公企業によるインフラ整備などで南イタリアへの企業進出を促しているが(中)の多い南部の自給自足、国内指向的な構造は変わらない。

<図⑧> 「青いバナナ地域」

<図⑨> 「イタ車」

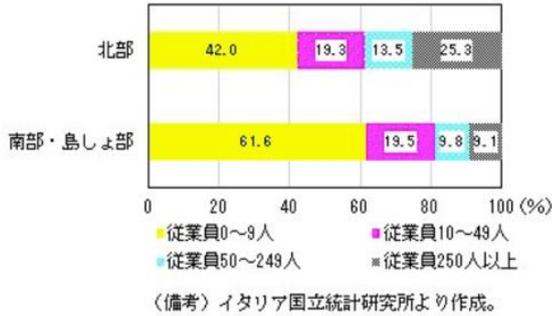
<図⑩> 「イタリア企業」の例



(C) モンキー・パンチ, TMS・NTV



<図①> イタリアの企業規模の南北格差



<表②> イタリアの貿易 (世界国勢図会)

輸出			輸入		
品目	(百万ドル)	(%)	品目	(百万ドル)	(%)
機械類	130,266	25.9	機械類	77,780	17.2
自動車	41,916	8.3	自動車	47,842	10.6
医薬品	23,436	5.4	医薬品	26,166	5.8
衣類	19,464	4.7	原油	26,098	5.8
金属製品	19,365	3.9	鉄鋼	18,544	4.1
鉄鋼	15,177	3.8	プラスチック	16,294	3.6
石油製品	14,355	3.0	衣類	16,194	3.6
合計	503,054	100	合計	451,416	100

【2017年】

<文章⑤> イタリアの第3次産業

イタリアは EU 内でも大きな生産力を持ち貿易収支は(黒)であるが、生産品が世界的に評価されていることが、その理由の一つと言えよう。芸術文化や歴史の蓄積から生まれる製品のデザインセンスや品質の高さが輸送機器のフォルムや(衣)のファッションに発信されている。また、日本でも人気があるイタリア発信のプロスポーツに(サ)リーグがあり、農業を中心とした第1次産業と第2次産業である食品産業が(第)である情報産業や旅行産業と結びつき、アグリツーリズムという形で6次産業化している新しい動きもある。

作業H イタリアファッションのセンスは古くからの芸術文化に由来するが、これに影響を与えた歴史上の出来事を指摘し、その本質を考察しなさい。

<記述欄・別の用紙を用いてもよい>

作業I 1980年代から90年代にかけて、イタリアでは当時のメディア王といわれる人物が政界に進出し、首相にまでなった。この出来事について調べ、当時のイタリアの産業の様子との関係を考察しなさい。

<記述欄・別の用紙を用いてもよい>

ACTⅣ イタリアの社会をまとめてみよう

作業J ACTⅠ～ACTⅢで学んだ内容をまとめ、＜参考資料＞を読み、イタリアの経済と社会についてまとめた文章を完成させよう。

ACTⅠで学んだ内容

ACTⅡで学んだ内容

ACTⅢで学んだ内容

＜参考資料＞



イタリアの米作りについては
雑誌「農業経営者」2013年4月号より



イタリアの地方の再生については
大前研一「華麗なる国イタリアに学ぶ『地方創生』」ネットメディア bibilion より



アグリツーリスモやイタリアの人々の暮らしについては
ブログ「The Grand Tour in Style Naples Paris Tokyo」中橋 恵さまより



イタリアのアパレル産業と中国人の関係については
一般社団法人国際貿易投資研究所



ファッション雑誌の立場からコロナ問題を扱った記事
「新型コロナウイルス感染症 {COVID-19} が、ファッション業界にもたらす影響を解説」(フランス版 ELLE より)

新型コロナ2大感染国のイタリアと中国を結ぶ糸（抄）

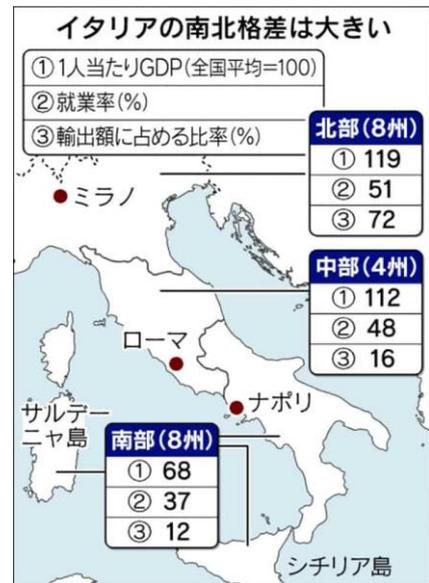
（前略）新型コロナウイルスを巡っては、感染源となった武漢には、なんと17万人もの温州人が進出し、ビューティーサロンなどの経営で成功している。春節をめぐって、数万人が900キロ離れた温州に一斉に里帰りしたことから、温州にウイルスが持ち込まれた可能性が高い。一方、イタリアでは、中国系住民が増加しており、全土では約40万人に達するとされる。このうち、7万人に上る温州商人が北イタリアを中心に進出しており、アパレル、製靴など繊維関連の事業に携わっている。経営者から縫子までことごとく温州人というケースも多い。（中略）そんな中国人の何割かは、春節で中国へ里帰りし、温州で新型コロナウイルスに感染したものの、それと気づかず、イタリアに戻ったと推察される。

つまり、「温州商人」という補助糸をからめてみると、「武漢～温州～北イタリア」の3点が一つの糸でつながってくる。彼らは、中国の「一帯一路」構想が唱えられるよりずっと前から西欧に進出していた。温州商人の存在がなければ、北イタリアの感染拡大は抑えられていたかもしれない。イタリアにおけるコロナウイルス感染を通して見ると、温州商人のネットワークや信仰心、十字架取り壊しに至るまで、様々な世相が見えてくる。世界は意外な形でつながっているのだ。

読売新聞 2020/03/27 10:34（上野 景文）

<文章⑥>

地中海に造山運動で出来た半島国であるイタリアは南北でそれぞれ環境、社会に特徴がある。（北 ）の平原地帯は温暖湿潤気候、中南部島しょでは（地 ）であり、気候に合わせた農業が行われてきた。古代には広大な（口 ）の領土の中心だったが、中世以降近隣諸地域の支配勢力が領地を細分化し、現代へ続く統一国家は（ ）年前に成立した。その領土は長靴の形の半島と2つの大きな島からなる。歴史的に地域の独立性が高く国民国家形成の過程で（ファ ）政権や南北格差、マフィアの跋扈を許すが1990年代からの現体制で新たな視点の産業開発が進んでいる。これは工業地帯や都市部の高（所 ）地域、経済が伸び悩む農村部の経済格差縮小への取り組みの一つでもある。1970年代以降古くから盛んな（ア ）産業に（中 ）の資本、人材が進出し関わりが深まっている。



<図⑫>2011/11/16 付日本経済新聞朝刊より

作業K <参考資料>を読み、別紙に①イタリアと日本の米作りの違い ②イタリアの南北格差③ 地方再生やオーガニック生産 ④イタリアのアパレル産業と中国人の関係と新型コロナ感染 からテーマを選び、まとめてみよう。

<記述欄・別の用紙を用いてもよい>